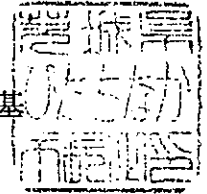


ひ 都 第 122 号
平成20年10月27日

国土交通省道路局長 殿

ひたちなか市長 本間 源基



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

このことについては、別添のとおりです。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

茨城県ひたちなか市

1. 中心市街地の歩道整備について

今後、中心市街地においては、生活の利便性を求めて居住する人が増えるとともに徒歩で移動する人が増えることが予想されるが、構造令の基準を満たしながら歩道を確保することが困難なことから拡幅に当たって高額な補償物件が多いことから財源の確保にも苦慮している状況にある。このため、道路規格(構造令)を弾力的に運用できるように構造令を改正することと歩道整備のための補助制度の充実を求める。

2. 道路財源の充実について

道路整備に当たっては、優先順位を定め重点的に予算を配分しているが、十分な裏負担が確保できないため、早期に効果が現れるような道路整備ができないでいる。このため、補助率の引き上げと起債充当率(できれば100%)の引き上げを求める。

今後の道路行政についての意見・提案
②-1 地域の現状と抱える課題

○現状 国家的プロジェクトであるひたちなか地区開発が基盤整備から利用の段階に入ってきているが、アクセス道路の整備や広域道路の整備が遅れている状況にある。また、公共交通の利用者や中心市街地の居住人口の増加に伴い歩行者が増加しているが、公共施設や医療機関、大型店間の歩道が連続して確保されていない状況にある。	○課題 ○北関東自動車道の全線開通 ○広域環状道路東中根高場線の県道昇格による整備推進 ○勝田駅東口市街地再開発事業の推進による交通結節点の充実 ○交通円滑化及び交通事故防止のための交差点改良 ○高齢者や来訪者に配慮した歩行空間の確保や移動円滑化の推進と整備財源の確保
---	---

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

様式 ③

茨城県ひたちなか市

地域の経済と雇用を支える産業の活性化を図っていくために、ひたちなか地区の土地利用や先端産業の立地を促進するとともに、常陸那珂港を拠点とした物流の活性化に努める。また、中心市街地では、住宅の集積や魅力ある商店街づくりによって、活気とにぎわいにあふれるまちを実現する。このように重点を置きながら「豊かな産業といきいきとした暮らしが広がる世界とふれあう自立協働都市」を目指す。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

茨城県ひたちなか市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	東中根高場線 西原長砂線 西中根田彦線 昭和通り線	開発効果の波及の広域化と通過交通の市中心部からの排除に寄与する ひたちなか地区と広域環状道路東中根田高場線を結節し、交通の円滑化と市民の利便性向上に寄与する JRIによって分断されている地域間の交通を円滑にする 勝田駅とひたちなか地区を結ぶことから本市の重要な発展軸となり、整備が進むことにより、商業を始めとした産業の集積が見込めるとともに生活利便性が高いことから後背地の宅地供給が進展する	
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	勝田駅東口広場 (仮称)高野小松原線	交通結節点としての機能が強化・充実するとともに都市のイメージ向上に寄与する 隣接する東海村と消防救急の広域化の効果が高められる	
・少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	交通バリアフリー構想に定める特定道路の整備	中心市街地のユニバーサルデザイン社会の実現	